長洲町立長洲小学校　校長便り　No.86

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年4月28日(金)

徒然

先日、我が家では早くも母がお茶を煎っていました。玄関までお茶の香りが漂います。毎年恒例となっているこの行事。そして、“新茶”として淹れられたお茶を飲みます。味はともかく（毎年、色が悪く味が薄いんですよ…）として、生活の中で季節を感じるひと時です。子供の頃は手伝わされました。お茶の葉を“煎る”という作業は火傷の危険も伴うのですが、私は好きでした。軍手をしてフライパンの上で茶葉を揉みながら煎ります。漂ってくるお茶の香りは季節の風物でもありました。

私の両親は二十四節気を大切にしておりまして、節気に準備する食べ物や飲み物については必ず準備します。私たち子や孫は、その体験で背景にある歴史や民の願いを学んできました。保護者の皆様にはこのような経験はありますか？　子供達には殆どありませんね。だからこそ伝えていかなければならない責任が教師にはあるのかもしれません。（最近の子はお茶の製造工程を知らないとか!?）

「夏も近づく八十八夜」は、今年は5月2日です。GWはちょっとお高い日本茶で贅沢なひと時を過ごしてみては如何でしょう？

GW「調子に乗らない」こと

明日から本格的にゴールデン・ウィーク（GW）に入りますね。コロナ禍も少し落ち着いて、各ご家庭でも計画が立てられているのではないでしょうか。私澤田、人ごみが嫌いでしてねぇ、多分どこへも行かず、家でゴロゴロか近くの立田山に散策ですかね、いやいや、プラモデルを作ろう、いや、積読をやめて読書をしよう、いやメダカのタライを洗おう…。やりたいことはたくさんあるのですが、先立つ物がないので、出来るだけコスパが良いものを選んでしまう私です。

さて、GWは私たち教師にとって少し心配な時期でもあります。自由な時間とお金が出回る時期といってもいいでしょう。また、夏休みや冬休み等とは違って、4月の慌しさを過ぎ、緊張感も下がって、羽を伸ばす子供達も多いのです。羽を伸ばすというと聞こえが良いのですが、度を越えた行為については、大人が厳しく対処しなければなりません。分かりやすい言葉で表現すると「調子に乗らないように」ということでしょうか。私たち教師もGW中は休養も取りますが、「生徒指導アンテナ」の感度を上げる時期でもあります。是々非々の指導を行う時期です。

これまで何度もお話をしてきたのですが、更にお話します。なぜ子供達のルール違反や生徒指導上のトラブル、安全面でのトラブル等について、我々教師が口やかましく厳しく指導するのか？　それは、私たち教師の経験に基づいています。これまで多くの子供達を担任、指導させて頂いた中で、その子がどのような進路をたどるのか、あるいは家族がどのような思いをされるのかを知っているからです。お解かりだと思いますが、やはり生徒指導上のトラブル等は、将来の本人や家族に大きな影響を与えるからなのです。逆に、物事を正しく判断し、ルールをきちんと守る子や、思慮分別のある子はルール違反もしませんし、「君子危うきに近寄らず」で、危険を冒す（ルールを破る）前に行動を修正します。その力は正に生きる力といってもいいでしょう。また、ルールを守ることが出来ないと、将来の自分の可能性を低くしていることにもなります。そのことを大人は伝えなければなりません。その最前線が保護者である皆様であり、私たち教師であり、地域住民の皆様でもあります。有意義なGWを過ごせることを祈っています。

シリーズ「自分を語る」#86

その年の6月、韓国の研修員チェさんを受け入れて、生活が軌道に乗ったと思ったら、次は海外技術研修員の受け入れです。というか、既に手続きに入っておりました。研修員の受け入れに向けて何をしなければならないかは、何となく分っていましたが、この研修制度で受け入れる人数は5名、しかも国籍がバラバラです。どうなることやら…。

先ずは熊本県人会がある各国へ募集要項を発出します。覚えている範囲で国を紹介しますと、ブラジル、ペルー、タイ、カンボジア、中国、韓国、メキシコでした。各国から研修員の申し込みがあり、一覧表を作って、電話面接、研修員決定、受け入れ、生活マネジメント、帰国…、その全ての元締めが私澤田でした。大変ですよ、まったく…。まず、電話面接です。県人会がある国や国際課の通訳が間に入ってくれる場合は、苦になりません。大変だったのはタイとカンボジアでした。左記は、その概要です。

タイからいきましょう。タイからの研修員は農業研修希望でした。農業の研修？といわれても…ですが、取り敢えず関係団体をチェックしました。「NPO法人れんげ国際ボランティア会」、「タイ谷口農場」が関係団体です。更に、研修員のバックグラウンドには、熊本出身の農業技術者、谷口巳三郎氏が関係していました。実はこの方、道徳の本「くまもとの心」でも取り上げられている方です。タイ北部で農業指導や人材育成に尽力した方でした。過去形でお話したのは、2011年におしくなりになったからです。タイの若者が貧困や失業、知識不足などによって犯罪が連鎖的に起こっていた現状を憂い、県職員からタイへ移住し、一生を捧げた人だと聞いています。実は私、国際課時代一度お会いしました。私のような者にも優しくお声かけ頂いたことを思い出します。

さて、タイ谷口農場に電話をかけて研修員と面談です。皆様のご想像通り、日本語は通じませんので、谷口農場の派遣担当者と日本語での話に終始しました。国際課職員のアドバイスもあり、「NPO法人れんげ国際ボランティア会」で受け入れが可能だということで、研修員として決定しました。「NPO法人れんげ国際ボランティア会」はどこかで聞いたことがある方もいるかもしれません。そう、蓮華院誕生寺と関連があるのです。私達はれんげ農園と呼んでいましたが、この会が運営する農業研修施設での受け入れとなりました。研修員の名前は「キティサック・セーラオ」さんです。何でも、タイでは本名で呼ぶことは殆どなく、ニックネームで呼ぶそうです。この研修員は自己紹介の時こう言いました。「ワタシノナマエハキティサック・セーラオデス。“ロン”トヨンデクダサイ。」えっ、名前とニックネームが全然違うじゃん…と思いながらも、これが文化だ、と言い聞かせ、無理やり納得しました。ロンさんは研修員の中で最も若く、研修を楽しんでいました。暑い国からの研修員なので、エアコンも殆ど使わず、研修を終えていきます。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）